



特別
A7
5167
5



三山
三山
三山

月瀬文庫

高林

おしへらまうま法ののどひくはるふゆふ

教ハ法佛の教は法の門ハ佛法と云ふんてあまの字ハ意覚理統

ゆを申入義こと通して佛法に入はる門と云ふ用とハ佛法の門乃

三山フカミの麓ノ麓ノ麓ノの寺ノ寺ノ寺ノは善ノ善ノ善ノよき

二山フタミと云ハ秘ノ秘ノ秘ノ尚ノ尚ノ尚ノ麻ノ麻ノ麻ノ寺ノ此ノ此ノ此ノのそびへは

いそをノをノをノ三ノ三ノ三ノのノのノのノ三ノ三ノ三ノのノのノのノ三ノ三ノ三ノのノのノのノ

のわらり小老の坂と云ふゆりその要ノ要ノ要ノのノのノのノ方ノ方ノ方ノ縁ノ縁ノ縁ノはノはノはノ未ノ未ノ未ノ曼ノ曼ノ曼ノ後ノ後ノ後ノ種ノ種ノ種ノとノとノとノ成ノ成ノ成ノ院ノ院ノ院ノ

高林文庫

五十一

して佛新と祝し老幼をこれらありまほと申おたき
唐室のあり雲ありおがまきしおよじうふ二とふ獄とひい
つたる見よふ獄とくくしこのまのがまるとふふい
のあくせをさるゆり受後落白死ゆとのきりきそまの
福林寺とてく俗よ高麻とて号以用ゆる常等中子麻書古と
又いぶの豊物主子のりへよのりて草創しあふふとて
解書ふんてり

一念後佛即滅空量物たとれり
是ハ寶主佛の文あり空量物たとれり
また念仏一念と六條の一念あり執持し一念は十位却の
わがふとわきと今この文は空量花とやるほどと云る

の巻とは折書寺のいひよりくあるん

八勢金お皆光わもをのりぢん

い注ハ折書寺中ふくりくあるん

解迦ハ折書後ハ守

解迦此方發遣後彼必来追と昔守此解よあるは
ハ在生性生の境切とををして浄土へ有りあま守と念仏
生と来追して引守んとのり又摘濟あも

とるよハ仏も我とありたり

この詞折書寺あもあをふよ浄土

浄くき及ハれりや

浄土生れんとらとんて執持の性生人の際終も浄源風とて

けあるの佛た修けすれの内徳もあつと申候きんさうり
 け時の登程等もあつて程も又十刻程も申候れがれも程
 たるさけふ御正とまげとさ八月も正来りのつてさあふ入御
 と目立候とよ浮出候法もけお節も候する年々今の世の書
 の彼者といふも程さるるさうりも目立の神師の善巧もい
 時心れ候りさゆんたあも候まじあはるるさうりさ事か候
 紀多冬考第八巻れさひの南拾巻下巻二巻の彼者のされ中
 ありんがさうり源氏流江さび湖月抄のせさる彼者時々の
 況もさあやまらさ

元元女

中物娘もあ高麻よれあて様室の親念しむおさうり時元元

一人の元元女さうりか蓮の茎次よりあて中物娘といとさひさぬ
 さえまんだらさおんの月させられさそさといとさあさのそあや
 されがそのり又元元と二人の女性さうり元元よさひかまの
 いと八歳就せりやと元元といとさといとさといとさといとさ
 いとさうりさ高麻よれあ水の角あてさるれ御更の時さうり御更のこ
 ろはひまどのさうり元元まんだらさあてさうりさ時元元女さあ
 ゆるまんだら元元をさとい元元又中物の元元あさなれがも安
 かなや元元さうりさうり元元八何とよさうりさあてさうりさ時
 のさうりささうりさの事ゆりさ時中物元元のとられかささうり
 元元はさうり元元さうりさうりさうりさうりさうりさうりさ
 元元はさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさ

ぐあよやととれびどのが身はうもる車とらせく
 らひくそはつらたるがどい打あてくさうんと
 とれどもぬし車かからうとせも牛は龍業の
 けろびわあひらも牛れめつゝあつゝ車と
 つりうろあうとく生死のひ身は滅あつら
 うろとれやじ車あは事とてお家月法集れ前
 おもろの道にさう牛れわとえまげあはつと
 もぬらひわりきりと縁らういさなをくあつ
 欲又時交よあ事とびひれ花よよこの終りあ
 従うれお車のあつらうとておいもあつらう

け落よいふとあつらうとてびをとりて車と
 牛れあつとみれびらまひひれうづとてひら
 らんと車れ轆端よ輓とく牛れ教よあつらあ
 られより男のびをや牛れ車といひつとら車
 けうとく心事へは花よとありな史考よあ
 れらど老と車と地とつとのらに少異れと牛と
 くらうとありこれの車れ床とけてさうらんと洞
 らうとらとあつらうとてさうらんとあつら
 南無や大聖釋迦如来我子のあつらとて
 安穩りり守らせ給ひん

物あらんといふはあらん名とまわらば遠くんがぬ先よ
書子とてそく出家一のち成菩提者あつてあふ事こと
釋迦佛れ中へいりては法然を考れ一の事をい
ひ事と出まり

あの大寺は柳陰がら子

南都大寺の七大寺の内之拾芥ニ云ふ世天竺天竺勝
宝元三年創之至天平神護元年十七年造畢とつて事
る後日本紀よ見しより今にありてはあつてはなり
柳とあつて傍に遍照演みたりといふありては白雲と
色よとぬきりまれ柳りびり上柳りい式

羊乳のゆとをさう約りよは煙きくゆのゆふ部の

あつて安まつつて法藏寺と寺よあつては

深氏物語海舟れをよむつてはあつてはなりは花

とありてはもあつてのせまれる事とむつてはあつては

法苑珠林二十一卷一衆業の法苑とて云人念くを

死如常法苑所又摩耶佛場とて摩耶梅改産蓮牛

枕屠所あつて死地人命度る是とあり屠所と云ふこと

ころあつては屠れ字の云い字彙よと割也教也割也と注

してはさうの肉とさうがらる義とを西飛とせりとの

れるそととよの莊子乃復ら又後書魏豹傳よとととら
 教師古がほりも又日れ事とありさくつらま百葉がうみと
 ありてそそるれせのあらなる法藏世れ寺すものつむと
 わしくがまむつれわものともむまのとゆれわちら
 記とよ同らとてび羊と約とよく一動とくわ出芳
 が神よととまれ生觀の是と我是とそゆ事いよと
 つけらるるへび法藏世れ寺いよから釋迦愛人
 花れうた本乃飛よや雲よ流々大井川
 ここのなる飛といとんぬり小育龜の浮本れ事といひ
 せらりとも下なる法藏の寺に事りてれ事なるは法

よわ事いりてまればらり事と心ひもせつらぬ
 法華抄八妙莊嚴と云佛羅の種如後星の羅花又如一
 眼龜陸浮本孔とて流るりひ法文と題いよめる長秋海藻
 よのきりこれやれら本よあふ飛あらんさうかれも
 のりあつねとれをれ法苑の文れ下の釋とよひよ合
 法とらうまうか大海の中にもむのれ育るる龜あり事
 ありを初まり首もよひとまひもあやうひむか
 流るよがら乃浮本ありきまはひとりのれを海
 れうちよひとていひあひにゆきまてむうにゆれ
 めくゆきそ対りれうひとらるる百葉ちよふと交せ

唐耶主人のおは鏡信しありしを津後法の次
等らほれおほの清法の下にあらんがも
寄れ修填しちちの佛のほまにあり終る事と
つらありしと無業湯仰しと物とを極しん
とされまらひがうめうし時のお中れ巧を
の今よみとありしと妙果れ取像とつらあり
やうにとありしと毘首羯磨夫とつら主人あ
らよ愛記して大下とあまらりまにま
これにおまエ巧大申にむもよれわられあり
終るる佛像と他んとの毘首羯磨と

いよの秘傳名義集八行巻にうんがうしは梵僧よ
毘首羯磨とよまの毘濕縛羯磨とよまらりと唐に
る終る事業との大天とれ大をうれものひに主人
とありしとて現る本約の會座をよとまつと
なるてしとて時優格とよまらふ香の本とあ
らひりらる御自身として有にあひ宿よあひ
あひしとれ大のたよわえらとてうけひ時羯磨を并
とつら本とよまらるるをよまらるる
とつらと天よむれ妙果れ切利鏡法の會座よとあり
しとつら佛神神力とつらあひらりてとあひらるる

唐耶主人の御

唐耶主人の御

あり安君と都して仰がまわやうにきくまを
 ケゴシキキ ブネシヨシギキウ
 花巻の流流演義をゆとび仰洗敷くはよむ
 おくかれど仰の道とゆれぬ中死地はまわりて
 ふまふ事とがう執めあはま地とよれぬ事
 世に指のわいどとらふかどにらうくは大直まか
 檀那の修善の依く流流を食ふとわりの仰
 とま坐禪して居と安く流すまらして安
 ナツケ一 ソノエヒカ
 名付らりともるるま中び二月九日也安君との
 承り心月十六日は夏とじとぶと初安君とも
 とらう流る七月十八日は夏とらうとらう
 九箇葉を流流の目と流流とらう自然の目限
 十七日らういづこの目らうとも八月十八日まて
 九箇目れらうとらうまらうまらうとらう
 ろく夏とらうとらう目らう九十日わらう日と夏
 さごじらう仲安君とも八月十六日らうじとび
 後安君らうとも八月十六日らう夏れそとら
 最後安君れらうとらうれ目とらう甘とらう
 まれる目と中安君ともらうとらう目とらう
 大九箇目らうとらうとらう目らうとらうとら
 くらうとらうとらうとらうとらうとらうとら
 ウララホシシキ

九箇目れらうとらうとらうとらうとらうとら
 ろく夏とらうとらう目らう九十日わらう日と夏
 さごじらう仲安君とも八月十六日らうじとび
 後安君らうとも八月十六日らう夏れそとら
 最後安君れらうとらうれ目とらう甘とらう
 まれる目と中安君ともらうとらう目とらう
 大九箇目らうとらうとらう目らうとらうとら
 くらうとらうとらうとらうとらうとらうとら
 ウララホシシキ

いし玉藏を深むといふまゝ信公の事とあるは今所
 三 弟ら子ありよこある名号おれん信公の死とい
 魚り信公れ没すたはまんよこありて不信せしと
 念公の有跡あり陀文といふ天竺則法師の淨意
 同は能是頑急暴悪無信し信或遭厄難危険之
 上ヨニアルハツスニサニオンサリヨラズオキニ事多クニ事サカ
 或或教撰歎惡嘆之勢不竟信公使叫河津渡舟
 乃或形有跡而何これられ信もり白氏文集れをくは
 よ無たのともぐも厄難よあひてうもあしむ
 事わすおほしと念公やとみる跡設案と跡
 おたたりとわらうまは百葉のぶられ又説法事

あれ持おれ名号成りてさびも破像とて名あはれ達
 為なぐうとよよは信公の死といふあひよんて
 ニ言と作仰して後世れあはよ奉福とらあつた
 かなづえれよあつたよひよひたつひよまありあつて
 されし逆縁やうなれよれ誓願よ流生とあはけ
 流んよれ流無地やまむとよあせてあひあつて
 逆縁れ事ハ奉勤徳小町の逆縁ありと信公下と
 いろ前よ流わりきうまうとれ逆縁よ小町
 の徳よりかり流くんとてこれ信公のあつて別
 れたり縁とていふまゝなごかりたの縁よむうく

法苑珠林卷五

三

ことと現縁といふをそれよあゝらるる義に
と名乗あふあゝらるる義に
わゝらるる

あゝらるる義に
授これらるる義に
と為あひ事云ふありしと同一也

あまのくまらるる後日曇花のこれゆゆり
後曇花るる重光明文句元よははがさひのを死らるる後
曇花と云ふこれらるる天を死らるる唐とてハ瑞雲花
といひ又ハ瑞雲と云ふもいふは男の阿る

乃出現の付ひ花わらるる出らるる海に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に

と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に

と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に

と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に
と云ふわらるる義に

此より威神イキリ力リキが加コはたさるるあり

此カの車クルマ路ヂとまわらざる様サマに

此ミツも満ミツちと相コトのつれと交ウチわりワケにむすべし

此キもとうとさる事コトなるに今イマ行ユク成ナリ就シしては

交ウチわりワケは此コト不足フツクなる事コトと交ウチわりワケは

此ホツケは我ワガ昔シヨク所シヨ於コ今イマ者モノ已イ満ミツちとわらざる事コト

此ホツケ車クルマ鹿カ車クルマ牛ウシ車クルマ也ナリ介カイは大白ダイハク牛ウシ車クルマあり

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケ車クルマわりの事コトは此コト火ヒ宅タクとさる事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

此ホツケは此コト者モノわりのほまじき事コトとさる事コト

法華抄百五

法華

ありありなるをいひてさうはらわしくもあはれ小乗の
 乘れ法とてたゞ他とていふも終はる法苑一乗乘よ
 て成仏とていひて朗録よのさうせの中より此車の
 中よりさうはらわしくもあはれいふもあはれいふも
 されど念佛の法苑とて同じく一乗乘れ終はるるあ
 りて天竺大師の教誨の疏よと法苑と同一極よ又重
 重義よとてあつたひの中にて念佛と判じあはれ
 実ねる難とてあつたひは法苑七卷よと淨土法苑とて
 すとあはれる事されど念佛れり者もたゞ大白牛車
 よあり一人いふまじびと車れぬとてと痛法ね難

教ふといふと車とていふも天竺の天竺よといふ羊鹿
 牛車とて判じあつたひは大白牛車とていひて白車と
 あつたひとて極よと実者とて此車白車れりとい
 ふはよ極よといふと車宗といひて実者といひて車宗と
 名づくも此車宗といひていふ此車とていひてすのり
 るとていひていひていひていひていひていひていひて
 といひていひていひていひていひていひていひていひて
 此生れぬもの又の長者の法苑の極よあつたひは法苑
 及乗之次宅の子のまの我子にあつたひは法苑よ
 といひていひていひていひていひていひていひていひて

法苑

眼裏の塵有くと男と女の心は事なりと

一生むろく

眼裏の塵有くと男と女の心は事なりと

心なる男と女と心なる男と女と

心なる男と女と心なる男と女と

心なる男と女と心なる男と女と

心なる男と女と心なる男と女と

心なる男と女と心なる男と女と

念うとありし其時佛にさういふは法性の二法を
わすれしとて死する風やめぬと彼とれしとて
死するもさういふは法性の二法とて

寂滅の十念とてこれ

此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに
此の十念は百千の業を断つるに

念うとありし其時佛にさういふは法性の二法を
わすれしとて死する風やめぬと彼とれしとて
死するもさういふは法性の二法とて
念うとありし其時佛にさういふは法性の二法を
わすれしとて死する風やめぬと彼とれしとて
死するもさういふは法性の二法とて
念うとありし其時佛にさういふは法性の二法を
わすれしとて死する風やめぬと彼とれしとて
死するもさういふは法性の二法とて
念うとありし其時佛にさういふは法性の二法を
わすれしとて死する風やめぬと彼とれしとて
死するもさういふは法性の二法とて

法名抄

五



